

## 各キャリアステージにおいて幼稚園教諭・保育士等に必要となる力

この表は、幼稚園教諭・保育士等が、子どもを愛し、守り、支えながらその育ちを見通して援助するなど、幼稚園教育要領・保育所保育指針等に基づいた幼児教育・保育の提供に当たって、成長の段階ごとに身に付けるべき資質・能力を確認するための指標としてまとめたものです。

区分	基礎形成期	成長期	発展期	充実・深化期	
	クラス担任・学級担任など		学年主任、チーフ、主任、副園長など		園長など
キャリアステージの基盤になる資質・能力	倫理観	○社会のルールやマナーを守り、他者の人権や人格を尊重して行動する。 ○園の方針を理解し、これらに則して行動する。	○高い規範意識に基づき行動するとともに、新人・若手の職員が社会人として成長できるよう支援する。 ○園の方針について理解を深めるとともに、新人・若手の職員の理解を助ける。	○園の責任者として、園の方針を示し、関係法令等を踏まえた行動をする。	
	責任感	○子どもの健康・安全を確保し、情緒の安定した生活ができる環境の構築や一人一人の子どもに応じた援助など、幼稚園教諭・保育士等としての役割を理解する。 ○園の一員として、状況に応じて自ら考え行動するとともに、職責に応じた業務を遂行する。 ○経験を積み重ねながら、業務上必要となる知識や技能について主体的に学び続ける。 ○課題に直面した場合に、自らの考えを持ちつつ、先輩職員と相談するなどして、より良い解決策を見出す。	○園での役割や幼稚園教諭・保育士等としての役割を果たすとともに、新人・若手の職員がその役割を果たせるよう支援する。 ○社会の一員及び園の一員として行動をすることや、幼稚園教諭・保育士等として主体的に学び続けることについて、自身が取り組むのみならず、新人・若手の職員の意欲を高めながら共に学び合う。 ○新人・若手の職員の業務の進捗状況を把握し、園内業務を円滑に進める。 ○社会環境が変化する中で、新たに発生する課題等に対して、園内で連携・協力しながら、その解決に向けて前向きに取り組む。	○園の責任者として、職員が園の方針に則して業務を遂行できるよう、全体調整を図る。 ○保護者、地域、関係機関の理解と協力の下、園の社会的な役割を果たすことができるよう行動する。	
	協調性	○伝え方、話の聞き方など、コミュニケーションに必要な手立てを身に付ける重要性を理解する。 ○他の職員や保護者、地域、関係機関と良好な関係を構築することの重要性を理解する。	○良好な人間関係の下で職員が安心して働くことができるよう、働きやすい職場風土の醸成に取り組む。 ○保護者、地域、関係機関と良好な関係を構築するための手立てを身につけるとともに、新人・若手の職員がその重要性を理解し、手立てを身に付けることができるよう支援する。	○園の責任者として、職員や保護者、地域、関係機関と良好な関係を構築する。 ○働きやすい職場風土が醸成される環境づくりに取り組む。	
	幼児教育・保育を構想する力	○園の方針を理解する。 ○子どもの興味や関心を捉える。 ○保育実践時の子どもの姿を予想する。 ○安全確保、活動時間、援助方法などを踏まえた環境構成を工夫する。 ○特別な配慮を要する子どもに対する援助について先輩職員等に相談しながら考える。 ○子どもの姿を、活動内容を中心に先輩職員と共に振り返り、今後の計画に生かす。	○園の方針を的確に踏まえる。 ○子どもの発達の実情を捉える。 ○保育実践を経た後の子どもの姿を予想する。 ○子どもが自ら環境に関わり、様々な活動を展開し、必要な体験を得られる環境構成を工夫する。 ○特別な配慮を要する子どもに関する専門的な知識を身に付けながら、子ども同士が関わり合い、共に育つことができるよう手立てを考える。 ○子どもの姿を、その背景にある心情も想像しながら他の職員と共に振り返り、今後の計画に生かす。	○園の方針を踏まえた幼児教育・保育となるよう、新人・若手の職員からの相談に応じるなど、共に学び合いながらその成長を支援する。 ○幼児教育・保育の構想に必要な視点や考えを園内で共有する。 ○保育実践を通じた子どもの育ちと新人・若手の職員の成長を予想する。 ○子どもの発達段階、集団、生活の連続性などを踏まえながら、子どもの姿を予想する。 ○知識と経験に基づく子ども理解の下、子どもが主体的に遊び、安心して活動することのできる環境構成を考える。 ○特別な配慮を要する子どもに関する専門的な知識や経験を生かし、長期的な視点から、集団生活を通して子どもの全体的な発達を支える具体的な手立てを考える。 ○新人・若手の職員が子どもの実情を踏まえて計画を見直しできるように、実践を共に振り返りながら支援する。	○園長の責任の下、全職員が参画し、園の理念や建学の精神等を共有しながら、教育課程や全体的な計画を作成する。 ○子どもや保護者、地域、関係機関の実情を捉え職員と共有する。 ○積極的に研修に参加するなど、幼児教育・保育に関する知見を広げ、自らの資質・能力の向上を図る。 ○園内外での研修等による学びの機会を設け、職員の資質・能力の向上を図る。 ○園の責任者として、より質の高い幼児教育・保育を提供するため、園の自己評価の充実を図り、組織的・継続的な改善策を講じる。
幼児教育・保育を実践・展開する力	○子どもの気持ちを尊重する。 ○楽しみながら、子どもと積極的に向き合う。 ○子どもの概ねの発達を捉え、援助する。 ○子どもの姿から、子どもの興味や関心を捉え、環境を構成する。 ○子どもの主体的な活動に触れ、子どもに対する基本的な関わり方を習得する。 ○特別な配慮を要する子どもに対する援助の視点を踏まえ、子どもが安心して過ごすことができるよう必要な手立てを講じる。 ○計画に基づいて実践し、経験を積み重ねながら、子どもの姿を捉える力を養い、今後の計画に反映させる。	○子どもを尊重し、受容的・応答的に関わる。 ○子どもの主体的な活動を見守りながら、必要に応じて、一人一人の子どもや集団に対する援助を行う。 ○子どもの心身の発達や活動の実態など、個人差を詳細に捉え、援助する。 ○子どもが興味や関心を持つ環境を柔軟に再構成し、子どもの興味や関心を広げる。 ○子どもがより主体的に活動を楽しみ、多くの体験を得られるよう関わる。 ○特別な配慮を要する子どもに関する専門的な知識を生かし、子ども同士が共に活動を楽しめるよう援助する。 ○実践の中で、多角的な視点から子どもの興味や関心を捉え、計画の改善を図る。	○新人・若手の職員の目標となるよう、保育実践を行う。 ○新人・若手の職員の強みや改善点を踏まえ、その実践・展開を支援する。 ○生きる、育つ、守られる、参加するという権利を尊重して子どもと関わる。 ○受容的・応答的であることや意図的に見守ることなど、一人一人の子どもや集団に柔軟に応じる。 ○子どもの発達過程、集団性、生活の連続性などを踏まえ、子どもの得る経験が、より良い育ちにつながるよう、実態に応じて適切に関わる。 ○子どもの興味や関心を捉え、子どもが自ら関わりたくなる環境を構成する。 ○知識と経験に基づく子ども理解の下、子どもと関わり、主体的な活動を引き出す。 ○特別な配慮を要する子どもに関する専門的な知識と経験に基づき、子ども同士が互いを感じ、理解しながら関わり合うことができるよう援助する。	○園の理念や建学の精神に基づく視点から、園内の保育実践の充実を図る。 ○保育実践中の職員や子どもを見守り、職員の成長や課題を捉え、職員の資質・能力の向上につながる手立てを講じる。 ○保護者、地域、関係機関から、園の取組に関する理解と協力を得られるよう、また、他園と幼児教育・保育の質を高め合うことができるよう、公開保育や情報提供等に取り組む。	
組織を運営する力	○園内での役割分担に基づいた各担当業務の内容を理解する。 ○先輩職員と連携・協働しながら、担当する子どもの保育やクラスの運営を行う。 ○担当する役割を果たすため、必要に応じて保護者、地域、関係機関と連携・協働する。	○園内組織の各役割を踏まえ、園全体の業務の進捗状況を確認しながら、担当業務を遂行する。 ○担当する子どもの保育やクラス運営を行いながら、進んで園運営に参画する。 ○園内組織における自身の役割に応じて、保護者、地域、関係機関と適切に連携・協働する。	○園運営についての共通理解を図り、園全体の業務を調整する。 ○他の職員と協力しながら、園の抱える課題等に組織的な対応をする。 ○新人・若手の職員の業務を支えるとともに、園長を補佐するなど、積極的に園運営に参画する。 ○園内研修の企画・運営などを通して、新人・若手の職員が幼児教育・保育に必要な力を身に付け、組織の一員として活躍できるよう育成を図る。	○園内における各役割を職員が理解し、担当業務を遂行できるよう、園内の組織体制や園の地域における役割を示し、園運営を行う。 ○職員が適切な役割分担の下、協力して園運営に参画することができるよう、必要となる人材を育成する。 ○地域に開かれた幼児教育・保育を提供するため、保護者、地域、関係機関との連携体制を構築する。 ○園内組織の機能を高めることや、円滑な園運営を行うため、自己評価や外部評価などにより継続的な改善を行う。	